赤ちゃんの四季（34）　平成21年夏

ついに、国内でも新型インフルエンザ

５月１６日に神戸市内の高校生が新型インフルエンザの国内感染第１例目として報道され、神戸市では、学校は休校、楽しみにしていた神戸まつりのパレードも中止となりました。

感染者はあっという間に100名を越え、もはや、国内への新型インフルエンザの持ち込みを封じ込める水際作戦は終了し、兵庫、大阪では感染拡大期から蔓延期に突入しています。こども急病センターには、連日、発熱患者が多数訪れ、その対応に苦慮しているところです。

今回の豚インフルエンザは、鳥インフルエンザと比べると毒性が低く、その致死率は、1918年出現のスペイン風邪（約２％）よりは低く、1957年のアジア風邪並みの約0.4％で、感染力は季節性インフルエンザ（0.1%以下）よりも強いと、11日の米科学誌サイエンスに発表されており、予断を許しません。

今回の流行では、今は高校生を中心としたものですが、早晩高齢者や乳幼児に感染が広がることが予測されます。抵抗力のない高齢者や乳幼児は一旦かかると重篤化します。こどもや老人を守るために、世話をする周りの方々が外出から帰宅したときに手洗いとうがいを励行し、家庭内に感染を持ち込まないように気をつけて下さい。熱や咳・鼻水があるなど風邪気味のときには、家庭内で必ずマスクを使用した上で世話をして下さい。一旦使用したマスクは使い捨てにし、再使用は好ましくありません。

自らが自らの健康に気をつけて、体調の異常に気付けば外出を控えることです。それが大流行を防ぐ道です。